

平成27年度第1回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会会議録

- 1 日時 平成 27年9月2日(水) 13時00分 ~ 15時00分  
 2 場所 横浜市文化観光局会議室  
 3 出席者 横山太郎委員長、芦澤美智子委員、足立文委員、猪又宏治委員  
 4 欠席者 なし  
 5 傍聴者 なし  
 6 議事内容

議題	1 平成26年度業務評価関係資料の説明 2 指定管理者へのヒアリング
委員意見等	1 開会 (1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 本委員会の公開・非公開について <審議結果> 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。  2 評価関係書類について 事務局から、評価に使う資料、評価方法について説明。  3 指定管理者実績説明 指定管理者より、「敷居の低い能楽堂」という方針の説明、横浜らしい能楽堂のあり方の考え方、現在の古典芸能における様々な課題解決や発展の可能性という意味における総合的な受発信地という横浜能楽堂のコンセプト等について説明。 また、平成26年度事業実績として、新しい切り口での事業、国際交流事業、芸術性の高い事業等により古典芸能を再創造するという点で注目度の高い事業の実施、施設見学等による横浜能楽堂や古典芸能へ触れる機会の拡大、収支状況等の観点から自主事業、運営、管理、収支予算などについて説明。  4 指定管理者へのヒアリング (以下「・」=委員、「→」=指定管理者) <質疑> ・能楽等の古典芸能は、事業の採算が取りづらく、パトロン等のいない現代においては、特に費用面で公共が果たす役割が一定以上不可欠である。しかし、市の財源にも制約がある中で継続的に事業を行うにあたり、どこまで経費を押さえられるのか検討していただきたい。 →他の自治体の能楽堂と比較をしても、自ら企画公演を行うところはほとんどなく、最大限の努力をしており、成果をあげている。 市費を削られた場合、現在と同様の質の事業を行う場合は、公演数を削ることや利用率をさらに下げることにつながる。 ・状況は理解するが、事業収入に対して事業経費が大きいと継続性がないとも言えるため、収支がバランスを取れるよう、今後とも努力をしていただきたい。 ・施設の総合的な収支においては黒字であり、券売率の高い状態を約20年間継続している点は、評価すべきと考える。 ・事業内容について、「琉球舞踊 古典女七踊」では、文化庁芸術祭 関東参加公演の部 舞踊部門において大賞を受賞し、横浜能楽堂が他の芸能への門戸を開いたという点において高く評価する。 しかし、能の公演で大賞を取れるとより良かった。 ・「明治八年 能楽の曙光」に関しては、タイトルが良いが、シテ方の演者の経歴に開きがあり観客が満足したのか疑問に感じた。また、鑑賞をしている中で、明治八年能楽の再興に向けた動きが

能楽の発展に寄与した点について、お客様への程度伝わっているのか気になった。

- ・「暗闇で聴く古典芸能」は、本当に暗闇で行うことに意義があったのか、アンケートを含めて再考した方がよい。良い演者を集めているため、ほの暗いろうそくの明かりでも良いので、語っている姿を見たかった。ただ奇をてらった催しではなく、受け止めるお客様のことも考えていただきたい。
  - ・「梅若玄祥のスリーステップで学ぶ能」は、有識者等の解説が1ステップあるが、チラシ等でタイトルを見ると、梅若玄祥氏が全3ステップ行うように捉えられてしまうのではないかと。また、公演が午前からお昼を挟み午後に渡り、非常に長い。ある程度の時間の中で、まとまった内容を完結させるべきと思う。
  - ・事業全般として、目をひくタイトル等であり、チケットの販売率も良いが、鑑賞へ来るお客様の目線に立った内容も必要ではないか。
- お客様アンケートの結果は、どの公演も非常に好評であった。また、券売率も高い状況である。「梅若玄祥のスリーステップで学ぶ能」については、タイトルと内容が異なるとの御意見等はいただいている。長すぎるとの御意見もないが、当館も危惧した点ではあるため、来年度から2日に分けて実施することも検討している。
- ・復曲・再演である「綾鼓」は、現行曲があるにも関わらず他の流儀で再生する理由や「綾鼓」を選んだ理由をアピールする必要がある。観世流から「綾鼓」を復活したいとの声があったのか。現行曲の他流派での復曲は、以前に何度か行った、失われた演目の復曲とは違い、貴館が行う意味等において難しい面がある。
- 「綾鼓」を復曲する理由は、ドラマティックに現代的な形で再生するという点があげられる。復曲を行う中では、流儀の違い等が出ることもあり、当方は非常に良い作品に仕上がったと感じている。
- ・「バリアフリー能」は、障害のある方への説明が、能の知識があまりない方への分かりやすさへ繋がる部分もあるため、引き続き行っていただきたい。
  - ・子ども向けの事業は、定例化しているものが多いが、その後、子どもたちが戻ってきていることやフィードバック等の有無等の情報があると良い。
- 「こども狂言ワークショップ」の講座からは、プロが生まれない。古典芸能に触れたことのない子どもたちへの機会の提供を事業趣旨としている。
- また、それほど多数ではないが、事業開始当初の参加者が自分の子どもを連れて来ることもある。
- ・例年はシリーズ公演が多いが、平成26年度は単発公演が多かったとのことだが、どのような意味か。
- 通常は、年5・6回のシリーズ企画を1本行い、その他古典芸能、古典音楽や舞踊を配置するが、26年度は企画の都合上、シリーズ公演がなかったためである。
- ・利用状況や収支への影響はあったか。
- 利用状況や収支よりも、企画の仕上がりによる。
- 最近では、館内でプロデューサーが育ってきて、単発のいい企画が出てきたため、なるべく企画を生かすようにしたことによる。
- ・評価の際には、客観的な指標が欲しい。現在は、券売率程度であるため、アンケートのまとめや新聞等での批評等を示していただく方が、貴館として行うべき事業であるか、また、市民へ届いているのか等を含めた建設的な評価ができる。
- 開館以来、報道等で公演の評価を記事化していただくよう心掛けてきた。来年度の評価の際は、新聞等で取り上げられた内容も含め説明したい。
- ・アートマネジメント界では、舞台芸術が事業収入・チケット代収入等のみで成立することは、ほぼないが、事業費と事業収入の健全なバランスという点でのコンセンサスはあるべきと考える。市民等への説明という観点でも、内容や古典芸能の慣習等を踏まえた事業収支の基準は示されるべきである。
  - ・経営学の観点では、事業費の増加傾向は継続性の面で課題が大きいと評価されるため、可能な限り均衡するという努力は行い続けるべきである。
- 自主財源率は、財団としても重要な課題と考えており、チケット単価の設定等についても考えなければならない。
- また、事業ごとの収支は把握しているが、全体の収支が黒字になれば問題がないと考えている。
- ・予算に対して黒字であるという主張は、理解できる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企業経営では、専門性の極めて高いレベルを目指しすぎたことによって、大衆のニーズとかけ離れ、事業の収益性が成立しなくなる「イノベーションのジレンマ」という考え方があり、対策としては、専門性の高い事業と世間の求める事業のチームを完全に分けなければならないと言われている。横浜能楽堂の事業の企画等は、分かれて対応しているのか。</li> <li>→事業のチームは分けており、ジャンルごと等で担当を循環させている。</li> <li>• リピーターの割合と古典芸能に対する知識レベル等、お客様の層を把握するデータを揃えると、今後の事業や収益、視野の広がり議論へ繋がる。</li> <li>→当館の公演は、事業ごとのターゲットを明確にしており、事業により客層が全く異なる。しかし、「敷居の低さ」を守り、狙った階層ごとに敷居の低い事業を行うようにしている。</li> <li>• 市の施設としては、ある一定数のリピーターばかりではなく、初来館者等の新規開拓をアピールしていただきたい。初回来場者の割合、満足度等を分析していただきたい。</li> <li>→現状でも、新規のお客様へ訴求する事業を新たに展開している。</li> <li>• 稼働率について、利用範囲を広げ、様々な形で能舞台を使用できることをアピールすると良い。施設としても多様な催しを行っているため、見本のようにすると良いのではないか。また、稼働率は以前から課題であるため、一定の受付期間を過ぎて空いている場合は半額で貸し出すなどの方策を行い、稼働率を上昇させるべきと考える。</li> <li>• 利用の柔軟性のみならず、営業を行う等、現在行っていることの補足をいただきたい。</li> <li>• 昨年も話題となったが、WEBサイトなどでお稽古風景の写真を出す等、より親しみやすくすることができるのではないか。</li> <li>→割引制度の導入については、市との協議も必要であり、利用率は上がるが収入が低下するという事も考えられるため、シミュレーションを行う必要がある。</li> <li>WEBサイトについては、来年度に向けて検討したい。</li> </ul>
--	---

<p><b>総括</b></p>	<p>次回（第2回）は、今回のヒアリング及び平成26年度の事業視察を元にして、外部評価について審議を行う。</p>
------------------	---